群馬県立中央中等教育学校　学校評価一覧表①（令和4年度版）

（様式1）

羅針盤			方策	第１回点検・評価			第２回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価（前期／後期）	外部アンケート等（前期／後期）	改善策	自己評価（前期／後期）	外部アンケート等（前期／後期）	改善策
Ⅰ特色ある学校づくりに努めていますか。	1豊かな人間性、想像力を育成する教育活動を行っていますか。	①自ら積極的にあいさつをしていると自己評価している生徒が90%以上である。	①大きな声であいさつできない生徒が増えている現状を踏まえ、教師から声を出しての積極的なあいさつに心がけ、継続的なあいさつ運動を展開し、家庭・地域でも同様に元気なあいさつができるようにする。	B	A／A	感染症対策を講じた上で、「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ意味や力を理解し、より多くの教師が生徒に声かけできるように、あらゆる場面で行う。	B	A／A	感染症対策を講じた上で、「すべての基本は挨拶から」「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ力や意味を理解し、より多くの教職員が生徒に声かけできるように、あらゆる場面で行う。
		②意欲的に清掃活動に取り組んでいると自己評価している生徒が85%以上である。	②教師が共に清掃に取り組みながら、生徒の美化意識を育む指導を行い、汚れているところを率先してきれいにする行動を校外、特に家庭や地域でも実践できるようにする。	A	B／C	生徒自己評価と職員評価は良いが、後期課程の保護者アンケートの評価は低い。学校ではしているが家ではあまりしない、と言える。家庭における環境整備の重要性について、感染症予防等との見地からも「保健だより」「学年通信」等によって、事ある毎に訴えたい。	B	B／B	破損した用具の交換や、清掃用具不足の解消にも力を入れ、清掃する環境作りをすることも必要である。また、引き続き「保健だより」「学年通信」の他、環境委員による「環境新聞」でも環境整備の必要性を伝えたい。
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。	③良好な学習環境を整備し、教師、クラスメート、先輩・後輩等との安定した人間関係を構築する。	A	A／B	感染症対策を講じた上で、朝の奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、「環境が人を変える」ので生徒が自身の可能性を広げることができる環境を整備していく。	A	A／B	感染症対策を講じた上で、朝の奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、「環境が人を変える」ので生徒が自身の可能性を広げることができる環境を整備するとともに、生徒と生徒、生徒と教師のよりよい人間関係の構築を目指す。
	2国際的なコミュニケーション能力を育成する教育活動を行っていますか。	④英語や外国文化に興味を持っている生徒が90%以上である。	④英語に関する各科目の授業を英語で行うだけでなく、英語を用いる機会や場面を多く設ける。	A	A／A	実践的なコミュニケーション場面や課題解決型の活動を感染症対策と両立できるように工夫しつつ、国際的なコミュニケーション能力を高めるとともに、ICTツールを用いた評価の仕方についても研究し実践する。	A	A／A	現在の取組を継続しつつ、4技能に加えて5領域目（発表力・伝える力）を意識した授業を行い、ICTを有効に活用して生徒の知的興味関心を引き出す取組を実践していきたい。
		⑤イングリッシュキャンプやスピーチコンテストなどの英語科行事や、海外修学旅行に満足している生徒が85%以上である。	⑤コロナ禍においても、できる限り関連行事を工夫して実施し、改善に努め、生徒の意欲や関心を高める。	A	B／C	感染症対策を講じた上で、各学年において、授業と行事を関連付けながら、興味関心や意欲をさらに高められるように行事の改善や工夫をしていく。	A	B／B	スピーチコンテストを初めとする行事において、コミュニケーション・内容の両面でより質の高い発表ができる生徒を育てられるよう、英語科全体で指導方法の改善を図る。
	3日本や世界の文化・伝統を大切にする教育活動を行っていますか。	⑥全ての生徒が、学校行事や授業等で我が国や世界の国々の文化・伝統に触れる経験をしている。	⑥学校行事、各教科等で、我が国や世界の国々の文化や伝統に対する理解を深める学習を行う。	A	A／B	日本及び世界の文化・伝統と関連させた授業内容が全ての教科で実施されるよう取組を強化するとともに、コロナ禍で十分に実施できていない学校行事等の正常実施を計画する。	A	A／A	生徒が日本、世界の文化・伝統を学習していることを意識できる授業を展開し、授業研究・FEWC推進部から示されたカリキュラムマップの改善にも努める。
Ⅱ生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4基礎・基本の確実な理解を図る指導を徹底していますか。	⑦授業内容を理解できていると感じている生徒が80%以上である。	⑦テストの結果分析を通して生徒の理解度を計り、理解度に応じた指導を行う。	A	A／A	年2回実施する授業アンケートの結果を全職員で共有し、コロナ禍においても可能な限り工夫を加えて協働学習を実践し、育成すべき資質・能力を一人一人の生徒が身に付けられるよう工夫する。	A	A／A	授業アンケートを個々の生徒の理解度の正しい把握に活用するとともに、コロナ禍での授業、定期考査、課題内容等を見直し、一人一人の生徒が自分の持つ力に応じた学習が展開できるよう指導の改善に努める。
		⑧少人数指導に満足している生徒が85%以上である。	⑧30人学級に加えて、英語や数学で少人数指導を行い、個に応じた指導を行う。	A	A／A	少人数指導のメリットが最大限に生かせるように常に指導方法を見直すとともに、更に効果のある教授法を校内研修等で共有し、個々の生徒の理解度をより高める。	A	A／A	形式的な指導に陥らないように、常に複数の目で授業実践を見直し、少人数指導のメリットを指導する側、生徒の側、ともに実感できる授業を目指す。
	5生徒の学習意欲を喚起する指導が充実していますか。	⑨学習動機が明確な生徒が85%以上である。	⑨前期課程では個に応じた学習指導を、後期課程では個に応じた進路指導を、それぞれ充実させ生徒の進路目標を明確化させる。	B	A／B	課題探究的思考力・ディープアクティブラーニングによって生徒が生き生きと学ぶ授業づくりにつとめるとともに、生徒の発達段階に応じた情報を提示し、視野を広げたり、考察を深めたりできるように支援する。	A	B／A	県貸与のパソコンに搭載されているスタディアプリのより一層の活用を含め、個に応じた学習への対応を各教科・学年で研究していく必要がある。
		⑩家庭学習の習慣が身に付いている生徒が80%以上である。	⑩学習時間調査、二者面談等の結果分析を有効活用し、指導に役立てる。	B	B／B	各自に学びを再認識させ、自分がいかにあるべきかを考えさせる一方で、望ましい学習習慣を確立するための方策を、全校・各学年・各教科で検討し共有する。	A	B／B	中高一貫校における学力の二極化という現状を克服すべく、適切な課題の課し方について、授業改善と関連させて全教科・学年で検討する。
	6教師は主体的に授業改善に努めていますか。	⑪すべての教師が、「探究的で創造的な学習」、「指導と評価の一体化」、「ICTの活用」等のテーマを設定し、授業改善に取り組んでいる。	⑪「新しい学び」という年度当初に授業改善に係る研究テーマを設定し、研究テーマに沿った全体研修を年2回以上実施する。	A		「ICTを活用した探究型学習」「創造的な人材を育てる授業」について、外部講師を招いての職員全体研修で理解を深め、今後の授業改善の方向性を共有したうえで、各教員が各自の授業計画に活かせるようにする。	A		FEWC人材育成ルーブリックに示された指標を踏まえたうえで、ICTを活用しつつ探究的で創造的な授業を展開できるよう、各種研修機会で得られた新たな情報や視点を、各自の授業実践においてより積極的に活用していく。
		⑫すべての教師が研究授業を行い、授業参観を年2回以上実施している。	⑫授業改善の一環として、コロナ禍においても可能な研究授業・授業参観、公開授業等をシステム化する。	A		授業改善の学校設定テーマについて教員各個人が改善ポイントを設定し、具体的な改善が図れるように公開研究授業および授業研究会の運営を工夫する。	A		授業研究を行う際に、ICTを活用した授業の方法や探究的で創造的な学習の進め方など、新しい授業方法を視野に入れた指導研究テーマを各自で設定しつつ、公開研究授業時の教員同士の学び合いを最大限に活用する。
Ⅲ生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7生徒が良好な人間関係を築けるよう組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬教師との信頼関係を築けていると感じている生徒が80%以上である。	⑬教師からの声掛けや面談により、生徒と触れ合う機会を多く持つ。	A	A／A	コロナ禍において、全職員で全生徒の言動を特に注視、情報共有し、「すべては生徒の成長(健全育成)のために」適切なタイミングで叱咤激励を行なう。	A	A／A	コロナ禍において、全職員で全生徒の言動を特に注視、情報共有し、「全職員が全生徒のことを大切な存在だと想い」「すべては生徒の成長(健全育成)のために」迅速かつ適切なタイミングで積極的支援を行なう。
		⑭クラスの人間関係が良好だと感じている生徒が80%以上である。	⑭日頃からクラス内で協働する機会を増し、お互いを思いやれる関係を作る。	A	A／A	コロナ禍においても現在の取組を継続しつつ、互いの価値観を認め合い、互いに高め合える集団を目指していく。	A	A／A	コロナ禍においても現在の取組を継続しつつ、「クラス全体が1つの家族だと想って」互いの価値観を認め合い、互いに高め合える集団を目指していく。
	8生徒は健全で健康的な学校生活を送っていますか。	⑮自分の健康について意識している生徒が80%以上である。	⑮「保健だより」や保健委員会活動による啓発活動を活性化し、SCによる相談活動をタイムリーに活用し、心の健康についても充分に配慮する。	B	B／B	新型コロナウイルスやインフルエンザの予防対策、ストレスコーピングを中心とした健康行動の徹底を図るための指導を、教育活動全般を通してさらに充実させる。	A	A／A	手洗い、消毒、マスク着用、換気が定着し、新しい生活様式が実践できている。今後は、この習慣を継続していけるよう指導を行う。
		⑯部活動や委員会活動に取り組んでいる生徒が75%以上である。	⑯部活動支援を充実させたり、ボランティア活動の紹介・啓発を行う。	A	A／A	3年生から4年生にかけての部活動加入のスムーズな展開と4年次以降の部活動継続の声掛けを徹底するなど、現状の取組を維持する。個々の活動の良さがさらに周囲へ理解されるよう広報活動にも努める。	A	A／A	本校の部活動、委員会活動に意欲的な生徒もいる。取組の様子がより周囲へ伝わるよう工夫したい。また、特別活動の意義を学校生活全般にわたって生徒が実感できるよう、新たな取組に着手する。
		⑰いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である	⑰定期的に実施するいじめアンケート、部教員にSCを加えた定期的な会議内容、関係職員による生徒観察、面談、保護者からの情報等により、いじめの実態を迅速かつ正確に把握し、いじめ対策委員会を中心に、被害生徒・加害生徒の関係改善のために尽力し、いじめを解消する。	A	A／A	コロナ禍において特に差別、偏見、誹謗中傷がないよう現在の取組を継続しつつ、いじめの定義を周知徹底し、いじめの認知を積極的に行なっていく。その上で、「いじめは何があっても許さない」という姿勢を貫き、よりきめ細かい対応を時期を逃さず生徒への面談等を実施し関係を密にしていく。	A	A／A	コロナ禍において特に差別、偏見、誹謗中傷がないよう現在の取組を継続しつつ、いじめの定義を周知徹底し、いじめの認知を積極的に行なっていく。その上で、いじめは「人の尊厳にかかわること」「人として絶対に許されない」「被害者は最後まで守りぬく」という基本姿勢を貫き、よりきめ細かい対応として生徒への面談等を実施し関係を密にしていく。
Ⅳ生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9各学年の特性に応じた計画的な進路指導を行っていますか。	⑱＜前期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が70%以上である。 ⑱＜後期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が80%以上である。	⑱＜前期課程＞心理テスト等で自己理解を促すとともに、学級活動で進路意識向上を図る指導を行う。 ⑱＜後期課程＞積極的にデータを活用した進路指導を実践する。	A A	A／ ／A	「主体的・対話的で深い学び」によって自己を理解し、協働学習によって自己有用感を向上させる指導を行う。 探究的な諸活動を通じて、自分自身が将来その解決に取り組みたいと考える社会的課題を設定する指導を行う。	A A	A／ ／A	＜基礎期＞生徒一人ひとりが興味・関心を抱くテーマを自己認識し、自らの学習意欲を向上させる支援を行う。 ＜充実期＞生徒一人ひとりが自己の適性を認識し、将来の目標となりうる職業を意識する支援を行う。
		⑲＜後期課程のみ＞進学意思が明確な生徒が90%以上である。	⑲＜後期課程＞二者面談や個別指導を充実させ、生徒への支援を充実させる。	A	／A	課題解決に向けて、蓄積した学力を得点力に、さらに合格力に転化させ、第一志望校への現役合格を実現する指導を行う。	A	／A	＜発展期＞文理選択や科目選択をふまえ、生徒一人ひとりが自己の学習計画を立案・実行する支援を行う。
		⑳子どもの進路希望を理解している保護者が85%以上である。	⑳三者面談の実施や保護者会により、情報の共有を図る。	A	B／A	感染状況を注視しながら、できるかぎり対面形式で、生徒・保護者がともに参加する進路講演会を実施し、家庭におけるキャリア観の構築を促す。	A	B／A	感染状況により対面での実施が望ましくない場合には、動画配信をするなどして、その内容を保護者に提供する。
	10生徒が将来の進路を選択するのに役立つ適切な情報や場を提供していますか。	㉑学校からの進路情報提供に満足している生徒・保護者が80%以上である。	㉑「進路だより」や「学年通信」、講演会等を通して積極的に情報を発信する。	A	B／A	できるかぎり複数の資料を提供し。文理選択・科目選択をはじめ、二者面談・三者面談における各生徒に対する個別指導を充実させる。	A	B／A	各学年通信に学習時間調査の結果や学力推移調査等の結果を掲載し、各家庭で保護者と生徒が進路に関して話し合うテーマを提供する。
		㉒進路講演会や進路関連行事を各学年、年2回以上開催する。	㉒コロナ禍においても生徒の学年や保護者の求めに対応した行事とし、企業人講師とのふれあいや高校生インターシップ等の体験的な学習を工夫して実施する。	A	A／A	年間行事計画にしたがい、各学年段階にとって適切な内容の進路講演会・進路学習会を実施する。	A	A／A	年間計画に従って3月に実施される全校の保護者を対象とするPTA進路学習会において、進路情報を提供する。
Ⅴ開かれた学校づくりに努めていますか。	11積極的な情報発信に努めていますか。	㉓Webページの必要箇所を月3回以上更新する。	㉓学校の最新情報を必要に応じタイムリーに掲載し、更新回数も増やす。	A	A／B	学校行事や部活動等の予定、志願者に対する入学選抜に関わる情報等をこまめに更新すると共に、コロナ禍で変更等を余儀なくされている内容についての情報発信にも努める。	A	A／A	県教育委員会のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進を受け、Webページの内容についても、保護者及びWebページを閲覧する側のニーズを把握し、学校の行事や授業の様子、学年通信、図書館だより等の随時更新を心掛ける。
		㉔学校説明会や公開授業、授業参観をそれぞれ年1回以上実施する。	㉔コロナ禍においても、密を避ける工夫をして対面での実施を計画すると同時に、リモート等も併用して効果的な実施を検討する。	A	A／A	関係各部との連携のもとより効果的な行事となるよう取組を深める。	A	A／A	様々な機会を捉えてながら保護者のニーズに応えられる行事が企画できるように努力する。
	12保護者や地域等との連携・協力に努めていますか。	㉕学校と家庭との連絡が緊密に行われていると感じている保護者が80%以上である。	㉕「れんらくアプリ」等による出欠確認やメール配信、PTA・学年行事や学年通信による情報発信、三者面談による情報共有等を積極的に図る。	A	A／A	一斉メールの運用を適切に行うこと等により、保護者にとって有意義な情報が各部署から適切なタイミングで発信されるようにする。	A	A／A	一斉メールのあり方を常に振り返りながら、必要な情報が過不足なく伝達出来るように引き続き努力する。
		㉖学校は、生徒・保護者による地域貢献活動を年1回以上行っている。	㉖生徒とPTAによる地域美化活動を実施する。	A	B／B	参加者の安全安心を十分検討した上で交流活動を積極的に実施する。	A	B／B	これまでの取組を効果的に継続し、引き続き活動の実態を周知するよう努力する。
Ⅵ教育のデジタル化に努めていますか。	13ICTを活用した授業等を実践していますか。	㉗クロームブックを活用した授業が全ての教科で行われている。	㉗全ての学年、教科でクラスルームを作成し、クロームブックを積極的に使った授業を実践する。	A	A／A	今後も継続してクロームブックの有効活用ができるよう、公開研究授業研修の機会を中心に、教職員への情報提供や教職員同士の情報交換を密に取っていく。	A	A／A	クロームブックの有効活用の方法について、今後も最新の研修情報を提供すると共に、教員同士が各自の経験をお互いに共有できるように研修機会をより充実させる。
	14ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉘ICTを活用した連絡や会議、行事運営等が全ての分掌で行われている。	㉘meetやメール、フォーム等の機能を利用し、ペーパーレスを心がけ、効率的な業務遂行をはかる。	A		欠席アプリを導入し、日々の出席確認が出来るようになった。今後、業務の効率化を図る目的であるアプリを積極導入していくとともに、メールやGoogleクラスルームを使用しペーパーレス化できるように研修を行っていく。	A		ICT機器の使用により仕事の軽減につなげるために欠席アプリを導入し、欠席連絡だけでなく、学級通信などの配布物についても積極的な活用を試みており、ペーパーレス化の一歩となっている。今後各分掌と連携して拡大していく。
Ⅶ生徒の安全確保を図っていますか。	15生徒の安全に対する意識喚起に努めていますか。	㉙交通安全教室を年1回、防災訓練を年2回実施する。	㉙体験的要素を取り入れた内容とし、指導効果を高める。	A	A／A	全校生徒を対象にオンラインで交通安全教室を行い、HR、学年集会、全校集会(Meet)等で、「交通事故は命に関わり、常に当事者意識を持ち、自他共に命を守る行動をすること」を指導の柱とし、常々注意喚起をしていく。	A	A／A	全校生徒を対象にオンラインで交通安全教室を行い、HR、学年集会、全校集会(放送)等で、「常に当事者意識を持ち、自他共に命を守る行動をすること」を指導する。ヘルメット着用を呼びかけるとともに、本校の事故事例報告や傾向と対策を周知し、常々注意喚起をしていく。
	16施設・設備の安全管理を徹底していますか。	㉚学校の施設・設備が整備され、安全であると感じている生徒・保護者が80%以上である。	㉚安全点検結果を検証し、危険箇所の迅速な改善に努める。	A	A／A	生活安全、災害安全の点検が形骸化しないよう、職員と生徒、両者の視点から、また、より細やかな視点で実施する。	A	A／A	職員、生徒の複数の目での安全点検を行い、危険箇所があれば、速やかに報告できるようにする。